

## 自殺予防教育プログラム実施報告書

学校名	北海道夕張高等学校
-----	-----------

### (1) 教職員間の共通理解を図る研修等の実施

研修等の実施日	令和5年6月16日（金）	研修参加人数	10人
研修内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 障がいについて</li> <li>・ 思春期の特徴について</li> <li>・ 社会的自立とはどういうことか</li> <li>・ 特性に応じた支援や指導方法について</li> </ul>		
研修に参加した教職員の声	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒の特性の中に弱さなどが目立つものの、医療の診断を受けるほどではないといったケースの場合、周囲からの理解や支援が得られにくいということを改めて学んだ。</li> <li>・ 生徒の特性に応じた具体的な支援や指導方法について知ることができてよかった。</li> </ul>		
研修等で使用した資料名	「障がいを抱える子どもたちの理解について」（スクールカウンセラー作成）		

### (2) 「自殺予防教育プログラム」の実施

	実施状況（主な実施内容、アセスメントツール等による生徒の変容、生徒の感想等）
A 援助希求的 態度の 育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 実践の概要 援助要請について理解を深め、悩んだとき、必要に応じて他者に助けを求めることができる態度の育成を目指し、LHRにおいて、スクールカウンセラーが第2学年を対象に集団カウンセリング「上手な助けの求め方（援助要請の心理学）」を行った。</li> <li>○ 生徒の変容を促す工夫 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業では、「援助要請とは何か」、「助けを求めることのプラスとマイナス面」、「援助要請のタイプ」、「相談する際のポイント」について伝えた。</li> <li>・ 授業の最後に、学習内容について整理し、理解を深めることができるよう、Google フォームを活用した振り返りを実施した。その後、振り返りで出た感想や疑問に対するスクールカウンセラーからの補足説明や答えなどは必ず生徒に伝えた。</li> </ul> </li> <li>○ 生徒の変容 今まで自発的に教員に相談をすることのなかった生徒が、教員に相談をする様子が見られた。</li> <li>○ 生徒の感想 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「人に助けを求めることはだめだと思っていたが、必要な時には助けを求めることがとても大事だと知ることができた。」</li> <li>・ 「人に相談するときは、相談相手のことも考えながら話すことが大切だと分かった。」</li> <li>・ 「相談することは大切だと改めて感じたが、状況や内容によっては自分自身で解決するなど、別の方法を選ぶことも社会では必要だと分かった。」</li> </ul> </li> </ul>

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">B 早期の問題認識 (心の健康)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 実践の概要 感情の1つである「怒り」との上手な向き合い方について考えることができるよう、LHRにおいて、スクールカウンセラーが第2学年を対象に集団カウンセリング「感情(怒り)のコントロール」を行った。</li> <li>○ 生徒の変容を促す工夫 <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業では、まず「怒りは何のためにそもそもあるのか」、「人はなぜ怒りを抑えなければならないのか」について伝えた。その後、怒りと脳の関係についてイラストを用いながら説明し、最後には怒りのタイプに応じた上手な向き合い方について紹介をした。</li> <li>・授業の最後に、学習内容について整理し、理解を深めることができるよう、Google フォームを活用した振り返りを実施した。その後、振り返りで出た感想や疑問に対するスクールカウンセラーからの補足説明や答えなどは必ず生徒に伝えた。</li> </ul> </li> <li>○ 生徒の変容 怒りの感情を抑えられなかった生徒が、感情を言葉に出す前に、一呼吸おいて感情を自分なりにコントロールしようとしている様子が見られた。前期と後期に1回ずつ実施した「ほっとプラス」では、全学年で「楽観的に考え直す力」が上昇した。</li> <li>○ 生徒の感想 <ul style="list-style-type: none"> <li>・「怒りのコントロールの仕方について知ることができてよかった。」</li> <li>・「怒りの感情がわいたときに脳内で何が起きているのかが分かって面白かった。」</li> <li>・「怒りは動物が生きていくためには必要不可欠なものだが、社会で生活する上では上手にコントロールをしていくことが大切だと分かった。」</li> </ul> </li> </ul>
---	---

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">C ストレス対処能力の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 実践の概要 ストレスを抱えた場面で適切に対処できる力の育成を目指し、LHRにおいて、スクールカウンセラーが第3学年を対象に集団カウンセリング「自立ってなんだろう？依存から考えてみよう」を行った。</li> <li>○ 生徒の変容を促す工夫 <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業では、高校卒業(社会のスタート地点)を控えた生徒を対象に、「自立とは何か」、「自立と依存の関係」、「自立(依存のネットワーク)を広げる方法」について伝えた。</li> <li>・授業の最後に、学習内容について整理し、理解を深めることができるよう、Google フォームを活用した振り返りを実施した。その後、振り返りで出た感想や疑問に対するスクールカウンセラーからの補足説明や答えなどは必ず生徒に伝えた。</li> </ul> </li> <li>○ 生徒の変容 学校行事などでは、全員でお互いを頼りながら、協力して作業を行う場面が増えた。</li> <li>○ 生徒の感想 <ul style="list-style-type: none"> <li>・「自立と依存の違いや関係性について初めて知ることができた。」</li> <li>・「社会に出たら何にも依存せずに自立しなければならないと思っていたが、むしろ頼ることができるものを増やしていくことが大切だと分かった。」</li> <li>・「人は何か頼らないと生きていけないと改めて実感し、それは自分だけでなく、周りのみんなも同じであると分かった。」</li> </ul> </li> </ul>
--	---